

YA

2006
No.17



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。



私の稀観本ノート その17

椎窓 猛

○私の『言志四録』

—人生を読む旅— 小島 直記

昭和58年12月15日、実業之日本社発行。もし、この一冊を先生より頂戴しなかったら、私は『言志四録』。これを綴った江戸時代後期の儒学者佐藤一斎を知り、学び得たかどうか。おそらくこれほど関心を寄せたか、NOであろう。これは私の生涯にとって、作家小島先生との邂逅、恩寵である。この本は小島先生のサイン本である。小島先生は還暦一年目、落ち葉舞いしきるヨーロッパへの旅に、この『言志四録』を持っていき、旅のつれづれに、これをひもとき随想を述べられている。

「血気には老少有りて、志気には老少無し」

この言葉を基に、先生は八女公園に建立の碑に「志」と題し、揮毫された。「一燈を提げて暗夜を行く」。暗夜を憂うこと勿れ。只一燈を頼め」この言葉より啓示をうけ、「八媛ふるさと一燈大学」の名がついた。

(自分史図書館長)

生きてゆくのみのからしと思ひをりおはぐるとんぼ頬をかすめゆく
木の香りほのかに匂ふこの室に亡父の写真先づ掲げたり
家ごとに紙漉きし村は遠き日の思ひ出となり秋深みゆく
薪かつぎ吹雪をつきて歩みけるシベリアの野を思わする雪
姉逝きし彼の日降りたる雨のごと十七年忌に降りしきる雨
定年を迎ふる春を飛形に朝日拝むと山頂めざす

・鶴 龍廣様は去る四月十三日お亡くなりになりました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

疎林の丘 鶴 龍廣



○久留米藩難から新選組まで
(海鳥社刊) 松本 茂

松本茂さんは久留米の郷土史家であり、「国際写真サロン」に5回も入選というカメラマンでもある。この本のご恵贈には、お便りがつけられていた。「梅花香る候となりました。このたび『自分史図書館』に拙著をご所望戴き光栄に存じます。温故知新に少しでも役にたつことがありましたら嬉しく存じます。本書には筑後溝口のことについても述べています。」幕末久留米藩の動向から、佐賀の乱、西南の役、新選組隊士考と興味深い事象が記述されているが、旧古川村の溝口は、筆者松本さんのご尊父の本籍地であったそうで、小学生の頃、自転車を漕いで行った思い出が綴られている。そこには、古刹光讚寺門前の巨大な樟の木が立っていて目標となったよし。九州製紙の起源、「溝口紙」にまつわる興味深い話が記述されている。たとえば「風船爆弾」のことなども一。





○私のシベリア物語
栗谷 栗束

「遠く日本を離れて、エニセー川の側に立ち、一人感慨に更ける。珍らしく空は晴れ渡り、故国に思いを馳せているとき、今、眼前に広がる風景は、広大な雪の砂漠か、虚ろの世界か、果てしなく続くであろう、これからの苦難と悲哀を象徴しているのか——」

四年間のシベリア抑留生活から生還の栗谷さんは、大正14年生まれ、今、鳥栖に在住、当時をふりかえり記憶をたどりながら書いてあとがきにのしるされている。



○わが人生に悔いなし
石井 勲

この一冊は、石井さんの人生体験から、ほとぼしりでた提言の書といってもよろしいような気がする。

例えば ①その人がどんな人生を送ってきたか、理想を求めて生きる人の顔の輝き。欲の皮だけで突っ張ってきた人の獣じみた顔 ②水は人間にとって必需物質。いくら栄養物をとって水も飲まなければ死んでしまう。③浮羽高女に赴任。ちなみに家内は当時の教え子。ここに赴任しなかったら、今の家庭はあり得ない。一瞬が人生を左右する。④快便は健康の元。トイレ問題についても興味深い話が豊富。



○墓島からの生還
見藤千代治

この著書にはつぎのような手紙が添えてあった。「このたび佐賀鳥栖にお住まいの山口昌登様より、自分史図書館に送られたらとのすゝめによる・・・」とのいきさつがしたゝめられていた。見藤さんは、ブーゲンビル島で、防疫給水部衛生曹長として中国大陸から、飢えと病気に苦しむブーゲンビル島での生と死の間での生活が綴られている。

復員後、60年近い歳月が過ぎ、妻を失くして間もなく僧侶の長男のすゝめで戦争体験記を書く意を決したと述べられている。



○死に損のうて
石原 亘子
小泉理恵子

手書きの香椎、町地図による装幀がユニーク。石原さんのまさに自分人生史。満州奉天で生まれ、平壤で育ったが、昭和18年、祖母のいる香椎へ、家族と離れ内地留学。だが小学生時代は食糧難、お弁当箱はサツマ芋。昭和20年10月、父母一家乗船の引揚船「珠丸」機雷にふれ沈没。以後祖母との暮らし。夕刊フクニチに連載マンガの「サザエさん」をとくに愛読の思い出。夫亡きあとも古書店「あい書林」を経営。さらりとした文章が好ましい。

編集掌記

▼新緑の五月。「花みずき十あまり咲きけりけふも咲く」こんな秋桜子の句をふと思いうかべながら「天窓舎」登り口のわが花水木を見あげる。今年もたしかに花をつけた。

▼かくて「Ya」17号の編集にとりかかる。寄贈本を手にするたびに思うのだが、売文業でないお方の真率一途な記述には心洗われる。石原亘子さんの古書店「あい書林」経営談に、「好きな本を、好きな人に買ってもらう。それで幸せ」と書かれたくだりに感銘を覚えたが、『自分史図書館』への寄贈本を手にするたびに、私は見知らぬ方に出会うような至福感にひたさされている。“本は人なり”である。

▼福岡の「アクロス」に「Ya」を置いてもらっているが、手にとっていた方が大変多いようで感謝している。

館長より

受贈図書紹介 ①

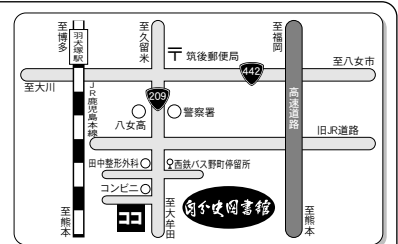
順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

- | | | |
|------------------|-------|------|
| 節くれの指..... | 星野 秀水 | 太宰府市 |
| 炎の村へ..... | 永延 幹男 | 静岡市 |
| 女子挺身隊甘木日記..... | 寺西マリ子 | 筑紫野市 |
| 歌集 石踏の花影..... | 桑原達三郎 | 久留米市 |
| 古川利三郎 想い出画集..... | 栗林喜美子 | 八女市 |
| 続 水明書院主人文集..... | 三原 温 | 久留米市 |
| 鉄塔..... | 三原 智 | 久留米市 |
| 青き未練..... | 大石 實 | 小郡市 |
| | 有田 秀子 | 長崎市 |

蔵書目録ができました
¥160 送料込(郵便切手可)

自分史図書館

入館無料
開館／午前9時～午後5時30分
休館／日曜、土曜日、祝祭日、年末・年始、その他休館することがあります。予めご確認ください。
貸し出しはしていません。
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



〒833-0032 筑後市野町423-8
TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分